

泊洋だより 9月



長かった夏休みも終わり、教室では子どもたちの元気な声が響いています。

前期学校生活の再開です。今年の夏は、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず多くの方がその影響を受けました。その中でも、様々に工夫をして夏休みにしか出来ない貴重な経験が出来たことと思います。時代は移り変わります。例えば、それぞれの職場に出勤し、対面で業務にあたるのが数年前までの勤め人の日常でした。けれども、コロナ禍以降在宅勤務という働き方が広まっていき、基本的に在宅勤務という会社も珍しくなくなってきました。数年前の日常を懐かしむだけではなく、このような時代の変化を受け止め、それに適応していくことの大切さを学んだ夏休みでもあった気がします。

9月から12月までの4ヶ月間は、様々な行事があります。また、しっかりと学習に打ち込める時期でもあります。それぞれの子の持てる力が最大限に発揮できるよう職員一同頑張っていこうと考えます。保護者や地域の皆様のご協力・ご指導をよろしくお願い申し上げます。

転校生紹介

宮崎媛歌さん（5年生）が八万南小学校から転校して来ました。媛歌さんは、本校で2年生まで過ごしていましたので、慣れ親しんだ学校でもう一度学べることをとても楽しみにしていました。もう、すっかり泊っ子として元気いっぱい活動をしています。全校児童11名！さらにパワーアップした椿泊小学校のこれからが楽しみです。



※ 夏休み中に、南部テクノスクールの大下校長先生がソウルブックという写真集を持ってきてくださいました。その中には椿泊の写真もたくさん載っていました。先生は海部郡出身だそうです。椿泊の美しい景色に魅せられていろいろな場所から椿泊の写真を撮っているそうです。この町に住んでいる本校の子どもたちよりもこの町の素敵な場所を知っているのかもしれない。本校の子どもたちも、もっともって椿泊の素敵なおところを見つけて欲しいと思います。

森氏の墓掃除…婦人会の皆様と毎年恒例の森氏の墓掃除をしました。心配された暑さも山の陰となっており、比較的しのぎやすかったです。蚊もほとんどおらず作業に取り組みました。歴代の当主である森甚五兵衛氏のお墓を地域の皆様が大切に守ってきたことがよく分かりました。地域を大切にするこのような思いをしっかりと子どもたちが受け継いでいって欲しいと思いました。



着衣泳…墓掃除の後は着衣泳、プール前の堤防で行いました。水に落ちたときは無理に泳ごうとせず、背浮きの状態で呼吸を確保して助けを待つことが大切です。いかに長く浮いていられるかが命を守るカギとなります。また、水の中で助けを待つ人を見かけたら、ペットボトルなどの浮きになるような物を投げたり、長い棒やロープをつかませたりして助けることができます。そのような体験をした後は、救命胴衣を着てのフリータイムでした。最初は怖そうだった子どもたちも、最後は気持ちよさそうに海に飛び込んでいました。



防災学習…防災倉庫に入っている防災備品の確認とその組み立て練習を行いました。災害が起こり体育館等に長期避難する場合、様々な問題が想定されます。それを解決するのが防災備品です。パーティションは広い空間を区切ることによって家族等のプライベートルームを作る物です。これは、カーテンで仕切る物とワンタッチでできる物がありました。レスキューテントは、素早くトイレの囲いをつくる物です。この中に簡易トイレを入れて使用します。そして、排泄物は凝固剤で固めてゴミとして出します。実際にこれらの備品を作ることで避難所での生活が想像できました。最後は、防災食を食べて終わりました。貴重な体験ができとてもよかったです。

